

■ ボトルシップの名前の由来

「ボトルシップ」は昭和の初めに生まれた和製英語で、正しくは「The Ships in bottles（ザ・シップス・イン・ボトルズ＝ビンの中の船）」といえます。

■ ボトルシップの起源

今から約200年前の海上輸送は帆船が主流でした。帆船の航海は風まかせで、長い航海のつれづれに、水夫たちは非番の時、さまざまな細工物を作りました。これらの細工物は、船が港に戻った時に売り払われ、彼らの貴重な収入源の1つになっていました。

1人の工夫好きな水夫が、飲み干した酒ビンの中に、乗っている船の模型を作ろうと思い立ち、苦心の結果成功しました。この“ビンの中の模型”は、細いビンの口から入れられた“不思議さ”の魅力をもっていましたので、特に高く売れたのでしょう。

作り方の秘密は、船から船へと伝わりました。彼らは希少価値を守るために、陸の人たちには作り方の秘密を明かさなかったそうで、欧米ではボトルシップは船乗りしか出来ない手工芸品と長く信じられ“安全”（無事に港に戻った）のシンボルとして珍重されています。

※中部ボトルシップ愛好会提供の資料をもとに作成

【中部ボトルシップ愛好会】（代表 近藤 賢悟 氏）

ボトルシップの作り方を楽しみ、作り手たちとの交流を通じ、さらにボトルシップを楽しむことを目的に、昭和59年に設立。現在の会員数は22名。

○活動

・月例ミーティング

毎月第3日曜日、名古屋港ポートビルの会議室にて作品紹介、アイデア公開等の情報交換を実施し、ボトルシップ作りを楽しんでいる。

・ボトルシップ新作展

毎年、11月から12月、名古屋港ポートビルの名古屋海洋博物館にて作品展示会を実施している。この間、土・日曜日は会員による制作実演や作り方教室も併せて開催している。

・その他の展示会、作り方等随時各地で開催している。